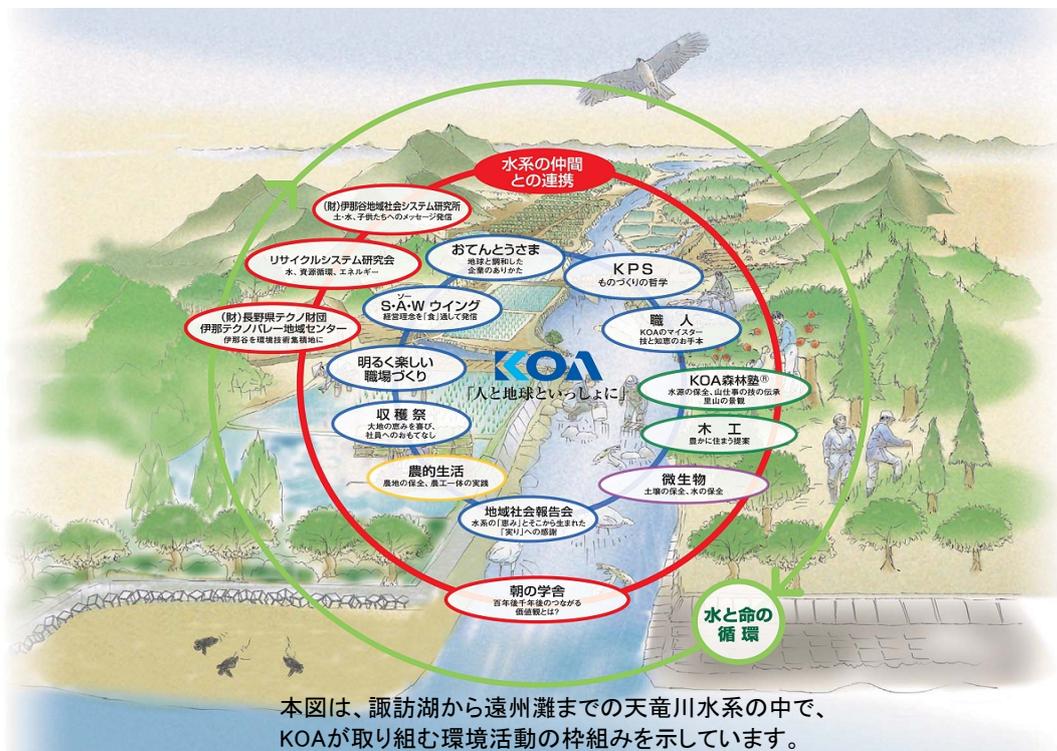


おてんとうさま活動アニュアルレポート 2011年度版

KOAは、「循環」「調和」「有限」「豊かさ」を経営理念として、
循環型地域社会のモデルづくりを目指しています。



「おてんとうさま」活動の概要（2010年度と2006年度から5年間の実績）

KOAグループでは、KOAを支えてくださっている人たち（お客様・お取引先様、株主様、社員とその家族、地域社会、地球）との信頼関係の構築を企業の使命と考え、地球環境との調和を図る「おてんとうさま」活動を展開しています。

「おてんとうさま」は、「お天道様に堂々と胸を張って報告できる活動しよう」という想いを込めて、ISO14001 環境マネジメントシステムにつけた名称です。また、品質面で進めている「ゼロディフェクト」活動を、社会環境面ではコンプライアンスの徹底や環境に与える負荷を最小限にする活動として位置付け、国内・海外KOAグループに展開し、KOAグループ全体で「おてんとうさま」活動を推進しています。

2006年度から取り組んだ長期目標は、この5年間に環境事故・クレーム ゼロ件の維持、3R活動による排出物の継続的な削減、揮発性有機化合物の業界目標の達成、京都議定書に対応した地球温暖化防止目標の達成等大きな成果を挙げることができました。

今年度からは、新たに策定したKOAのビジョンと2015年度に向けた長期目標の達成に向け、活動を始めています。

KOA株式会社 会社概要

- 所在地：長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016
- 創立：1940年3月10日
- 資本金：60億3300万円（東証・名証一部上場）
- 代表者：代表取締役社長 向山孝一
- 従業員数：1,257名（2011年4月現在）
- 事業内容：各種電子部品の設計開発・製造・販売
- 環境管理責任者：常務取締役 深野香代子
- ISO14001認証番号：JQA-EM0155（1998年4月登録）
- 内容問い合わせ先：経営管理イニシアティブ
社会環境センター
【TEL：0265-70-7176（直通）】
【E-mail：gac-e@koanet.co.jp】
【URL：http://www.koanet.co.jp】



KOA環境方針 ～おてんとうさま活動の基本方針～

出発点

どうしたら地球と調和した生き方ができるのか。

理念

KOAは信州伊那谷に生まれ、育まれてきた企業です。お百姓がお百姓として自らのふるさとで生きていけるようにとの願いで、創立しました。

電子部品の製造に携わりながらも、土と水とおてんとうさまのおつきあいのなかで学び、生きとし生けるものの一人として地球との間に信頼関係を築いていきたいと考えます。

社員一人一人が自分たちをとりまく水系の命の循環に関心をもち、「おてんとうさま」(環境マネジメントシステム)を自己責任のもと実践することで、わたしたちのふるさとに循環型社会のモデルを創造していきます。

方針

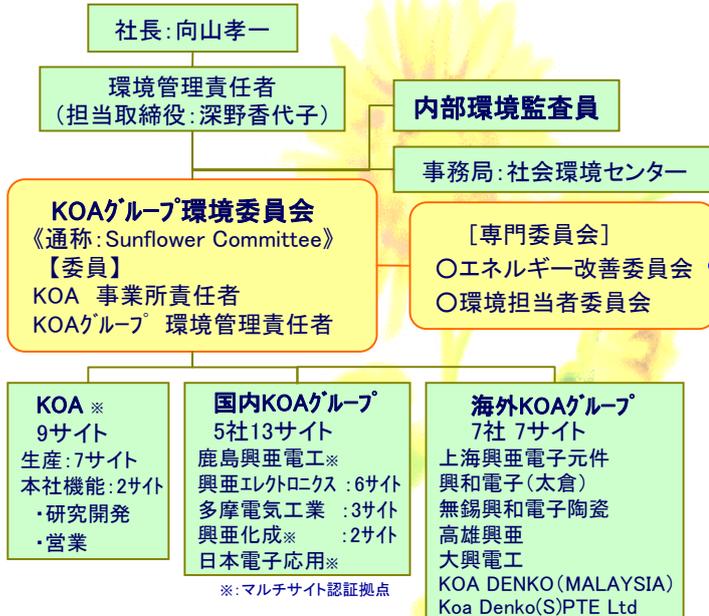
- 一、KOAは、開発・製造・販売活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確にとらえ、「おてんとうさま」(環境マネジメントシステム)を構築し、「おてんとうさま」の継続的改善及び環境汚染の予防を図る。
- 一、KOAの環境活動は、社会環境対応を「おてんとうさま」活動とし、製品環境対応を品質保証活動として展開する。
- 一、KOAの環境側面に適用可能な法規制、KOAが同意するその他の要求事項(お客様要求事項を含む)及び自主基準を順守し、環境マネジメントマニュアル・品質マニュアルを基に全社員が自然環境に配慮した行動をする。
- 一、本方針の理念に基づいて行動するため、環境に調和した業務や有限な資源の有効利用、環境負荷の少ない製品・工程、地球温暖化防止を追求し実現する環境改善活動を環境目的・目標の枠組みとして、毎年見直しをする。
- 一、環境内部監査を実施し、自主管理による「おてんとうさま」の維持向上に努める。
- 一、この環境方針は、KOA及びKOAグループにおいて、環境活動に携わる全ての人に周知し、環境意識の向上を図る。

平成17年4月1日

KOA株式会社 社長 向山 孝一

おてんとうさま推進体制 ～KOAグループ丸となった活動～

社会環境の活動体制 (2010.4.1～)



鹿島興亜電工のマルチサイト認証

2009年度の2拠点に続き、2010年度には鹿島興亜電工のマルチサイト認証を行い、4社13サイトが一つのシステムで運用される体制になりました。KOAグループ一体となった活動によっておてんとうさま活動のレベルアップだけでなく、事務局の一元化による業務効率化やコスト削減効果も生まれています。

エネルギー管理体制の構築

KOAでは、省エネ法改正により「特定事業者」に指定されたことを受け、環境管理責任者をエネルギー管理統括者とした管理体制を構築しました。2009年度より整備を進めてきたエネルギー管理標準の運用状況のチェックや中長期計画の立案・実行の監視等の機能をエネルギー改善委員会に加えて活動を進めています。

新たな「ビジョン」を策定

【KOAのビジョン E. 地球】

「KOAとKOAに働く総ての人が、その家族や地域社会の人々と共に、KOAの生まれ故郷である天竜川水系と各拠点の地域社会を舞台に生物多様性を保全し、循環型社会の実現を目指した活動を進めている。」

このビジョンは、KOAに働く様々な国や地域の総ての人を対象とし、あらゆる事業活動において、環境改善効果を見えるようにし、環境に調和した業務、環境に負荷を与えない活動をさらに推進するという基本的な考え方を示しており、このビジョンの浸透を図りながら全社員が社会環境に配慮した業務を進めていきます。

製品環境の活動体制

KOAグループでは、製品への環境負荷物質含有を規制し、法規制及びお客様の要求にお応えするために、ビジネスフローの各場面で製品環境に対する管理体制を品質マネジメントシステムの中で確立し、より高い品質とサービスを提供すべく活動を進めています。

おてんとうさま作戦(環境目的目標)の達成状況

AC	長期目標	2010年度目標値	評価	状況
I	汚染の予防 (事故防止・コンプライアンス)	環境事故ゼロ : 事故・環境影響の予防改善を 毎期1件以上達成 : 社会環境リスク対策	◎	事業所の著しい環境側面を通期で19件改善し、社外環境事故、社外クレーム0件を維持しました。 排水系統の社会環境リスク37件を特定し、13件の改善を行い、残りは次年度に対策を計画しています。
II	環境に調和した業務の実現 (環境影響緩和、コンプライアンス)	①環境に調和した業務を目指す改善を毎期1件以上達成	◎	本来業務の業務テーマに環境改善を加えながら通期70件の改善を行いました。
III	有限な資源の有効活用 (3R活動による排出物削減)	ゼロエミッション総量生産数量原単位(特殊工程廃液を除く)削減活動の実施	◎	生産量増加に伴い廃液を除く排出物は増加したものの、リデュース・リユース活動の徹底により、製品1個当たりの排出量では目標とした水準を維持できました。
		特殊工程廃液のゼロエミッション総量生産数量原単対前年度比、0.2%削減	◎	生産量が増加したものの、工程改善等により約10t削減、製品1個当たりの排出量で約11%削減できました。
IV	環境負荷の少ない製品・工程の実現	環境に配慮した製品・工程の設計・改良実施により環境負荷低減となる改善を毎期1件以上達成	◎	小型化、材料使用量を抑制したもののづくり等、設計面での見直しを進めています。
V	地球温暖化防止 (エネルギー起源CO2排出量を2010年度に1990年度比6%削減)	エネルギー起源CO2排出量を通期10%増加に抑制する	◎	生産量増加に伴いCO2排出量は増えたもののムダ運転防止、冷却水フリークーリング化等の通期45件の改善により、約250t-CO2の削減を行い、目標を達成しました。

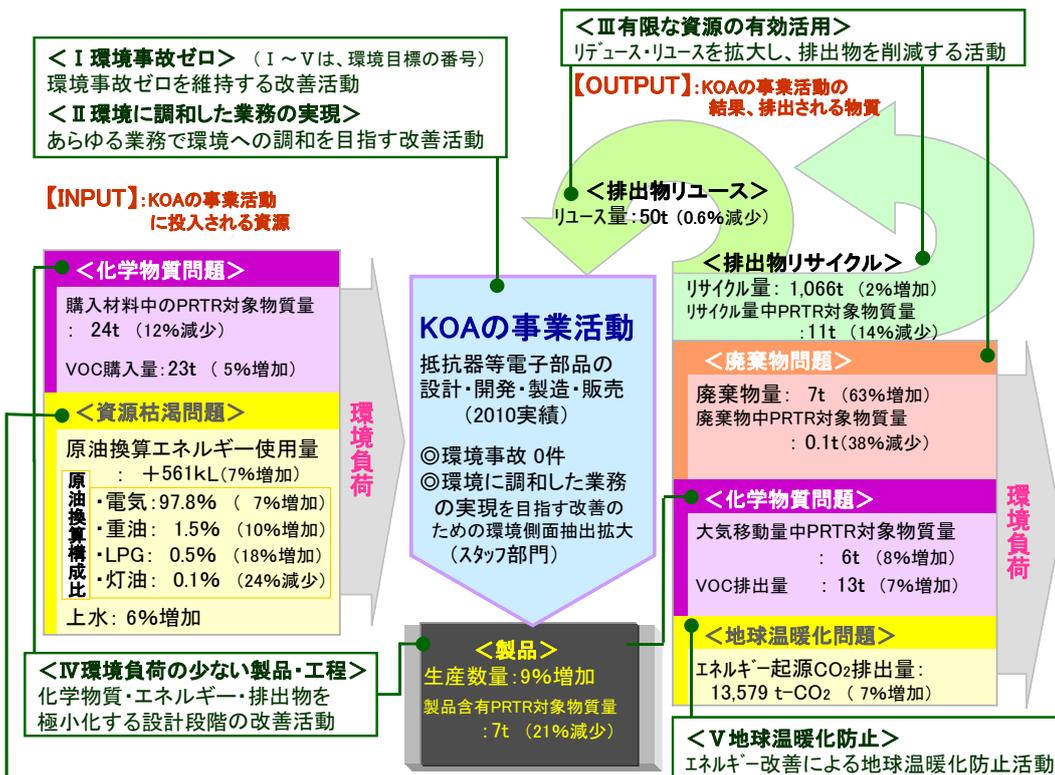
長期目標達成のため、目標見直し

AC	長期目標(2015年)
I	環境影響の予防 (汚染の予防、コンプライアンス) 〈環境事故ゼロ〉
II	環境に調和した業務、環境負荷の少ない製品・工程の実現
III	有限な資源の有効活用 〈2015年度に最終処分率1%未満、及びゼロエミッション総量原単位を2010年度以下にする〉
IV	地球温暖化防止 (省エネルギー活動の推進) 〈2015年度のエネルギー起源CO2排出量原単位を2010年度比5%低減する〉

◎: 100%達成、○: 70%以上達成、
△: 50%以上達成、×: 50%未満の達成

環境負荷状況 ~KOAの環境負荷状況~

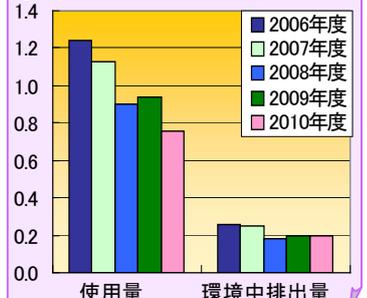
KOAのマテリアルフロー(物質循環)図と環境負荷毎の対策
 <記載数値は、2010年度実績、()内の%は、2009年度比>



2010年度環境負荷状況

生産量増加に伴い、マテリアルフローの各指標とも絶対量では増加となりました。この中で、製品1個当たりのPRTR対象物質使用量・環境中排出量は、2006年度から約40%の削減となりました。これは「環境負荷の少ない製品・工程の実現」の施策として洗浄方法の工夫や有機溶剤の使用量削減等の改善に継続的に取り組んできた成果です。

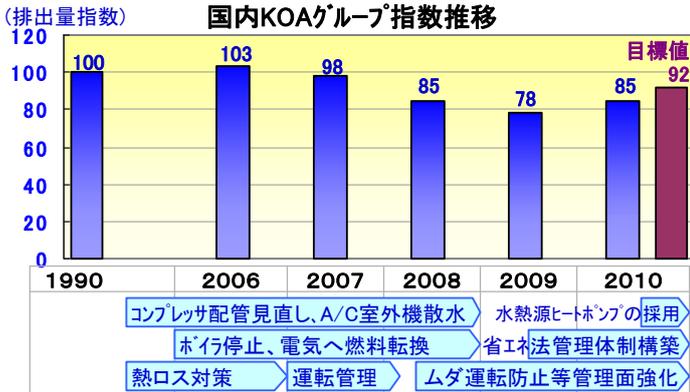
PRTR対象物質生産数量原単位 (g/Mpcs) 2006～2010



☆PRTR: 「Pollutant Release and Transfer Register」の略
化学物質管理促進(PRTR)法で規定され、自主的に削減する努力義務があります。

おてんとうさま作戦の成果 ～長期目標(2006年度から2010年度)の総括～

地球温暖化防止 : 京都議定書対応長期目標の達成



国内KOAグループは京都議定書への対応として、「エネルギー起源CO2排出量を2010年度に1990年度比6%削減する」を目標に省エネ活動に取り組み、目標指数92を大きく上回り指数85、2006年度から約5,400t-CO2を削減し、長期目標を達成することができました。

西山工場では、生産工程で温まった循環冷却水を熱源としたヒートポンプの採用により、熱効率を大幅に高め従来より36%CO2削減を実現し、また匠の里のグリーンカーテンが電力会社様のHPやメディアで紹介される等、工夫を凝らした改善活動を進めました。



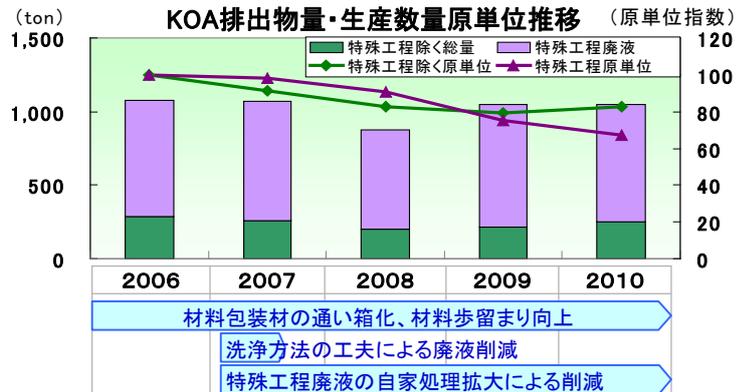
匠の里のグリーンカーテン

コンプライアンス : 法規の順守状況

社会環境法規・環境上の要求事項の違反: 0件

KOAグループでは、順法監査の他、「汚染の予防」で事故ゼロを維持するための予防改善を毎期目標化して継続的な改善を行うとともに、2008年度からは環境リスクマネジメントの観点から全社の著しい環境側面を特定し、リスクへの予防改善対策により法規違反の要因となる環境事故の芽を徹底的に摘み取る活動を行っています。これらの活動により、2006年度から社会環境法規違反や環境事故、社会環境クレーム0件を維持することができました。

有限な資源の有効活用 : 製品1個当たり排出物の削減



KOAは、ゼロエミッションを維持しながら排出物を削減する3R活動に取り組んでいます。KOA排出量の約8割を占める特殊工程廃液については2006年度から製品1個当たりで約40%削減、特殊工程廃液を除く排出物は約18%削減と大きな成果となり、排出物のより少ない生産活動を実現しています。

環境負荷の少ない製品・工程の実現

REACH規則への対応

2007年に施行されたEUの「REACH規則」は、成形品に含有する化学物質の届出、情報伝達を要求しています。KOAは、これらの要求に対応すべく、すべての製品において高懸念物質(SVHC)の調査を完了しています。(2011年3月現在) また、製品に含有する化学物質の情報開示についても社内に専門部門を設け、JAMPが提唱する情報伝達ツールを始めとする様々な業界フォーマットに対応して情報提供を行っています。

部品レベルのCO2排出量の把握

地球温暖化防止活動の一環として、ライフサイクルアセスメント(LCA)手法による製品の環境負荷の評価が求められるようになってきました。KOAは主力製品に対して、この手法でCO2排出量の定量評価を実施し、経済産業省が進める「カーボンフットプリント制度試行事業」へ所属業界の企業と協力しデータを提供するなど、様々な要請に応えています。

生物多様性の活動 ～地域社会とのお付き合い～

私たちの考える企業資産: 地域社会とのおつきあい

企業 資産 地域 社会	人づくり	KOAグループ表彰と職人
	「おてんとうさま」活動	企業活動に伴う環境負荷の低減
	森とのおつきあい	KOA森林塾
	水とのおつきあい	
	土とのおつきあい	リサイクルシステム研究会
生態系の一員としての喜びと責務	(財)伊那谷地域社会システム研究所	

森林整備を通じた地域とのおつきあい

パインパークとその周辺にはアカマツを中心とした森林が約10haほどあり、森林を所有する地域企業や個人の方々や森林の整備に取り組んでいます。2010年10月には上伊那林業士会の方々や講師となり、上伊那農業高校生40名を対象にこの森で間伐実習を行いました。地域と連携した森林整備を今後も継続していきます。



演習林の貸し出しにより教育の場を提供



間伐材は地域の市場へ出荷

森林整備を通じた社員との取り組み



社員所有の森林にて間伐実習



パインパークにてチェーンソー教室



匠の里にて間伐実習

約200名の社員やその家族が山主という地域柄、KOA森林塾は、社員とともに地域にあった森林との関わりを模索するため様々な機会を用意して、「木を伐って使う」、「木を伐って森を育てる」活動に取り組んでいます。

社員山主の間では、社員山主の会「しらかば同友会」とKOAが長野県「森林(もり)の里親」制度の契約を結びました。企業が森林整備の労働力提供を対価としてこの制度の契約を締結した長野県初のケースとなりました。

また、チェーンソーの安全な扱いを学びたい社員に対しては、パインパークにおいてチェーンソー教室を通年実施し、技術指導を行っています。

匠の里では1993年に、ギフトショウも住める緑地づくりを目指し社員の手で広葉樹を植林しました。それから18年を経て、社員による2回目の間伐が行われ、約20名が直径20cmほどに育ったカシやナラ等を間伐しました。間伐材は参加者が持ち帰り、薪やキノコのほだ木として利用しています。整備後の林には木漏れ日が差し込み、様々な生命を育む森へまた一歩近づくことができました。